
学会ニュース

日本女性学会

第6号 1981年5月

第 2 回 総 会 等 の 御 案 内

設立総会以来ほぼ1年、日本女性学会の活動も着実に進んで参りました。昨年6月の総会后、3回の研究報告会、4回のニュースレターの発行等を通じ、決して華々しくはありませんが地道な成果を積んで来たものと信じます。とりわけニュース4号から御紹介しております「私の仕事、研究——会員から」は、本会に参加している各地の会員の熱意あふれる女性学への関心を反映しており、今後の会活動の豊かな発展を予想させてくれるものではなかったでしょうか。

さて、ニュース5号でもお知らせいたしました通り、来る6月7日(日)に別記のように日本女性学会の第2回総会を開催いたします。これまでの成果の上に立ち81年度以降の活動方針等を定めますとともに、日頃接触のない遠方あるいは異分野の会員との交流の機会ともいたしたいと思えます。諸般の事情から今回も東京での開催となり、遠方の方には恐縮ですが、是非万障お繰り合せの上、御出席下さいますようお願いいたします。なお、出欠のお返事をお忘れなくお出し下さいますよう併せてお願いいたします(御欠席の場合は委任状をいただけますよう)。今回は懸案の規約第2条(会の目的等)についても活発な御討議を期待しております。

総会に引き続き、午後からは講演会ならびに会員の研究発表会を開催いたします。これは公開にいたしますので、会員以外でも関心のある方々を是非お誘い下さい。先に御協力いただきましたアンケートの結果、会員の研究発表を期待するとの御回答が、当然のこととはいえ予想以上に多かったので、今年度総会までに準備ができるとお申し出のあった方々の中から、4人の方をお願いいたしました。その他、アンケートの結果につきましては、総会の席上で御報告申し上げます。

当日は受付で81年度の会費を申し受けますので、どうぞ御用意下さい。また同封の会費納入についてのお願いの方も御参照下さいますよう。

記

日 時 1981年6月7日(日)
午前10時より総会
午後1時より公開プログラム(講演ならびに研究発表)

場 所 法政大学62年館211番教室(昨年と同じ場所。初めての方、本校ではありませんので、地図を参照されお間違いのないよう)

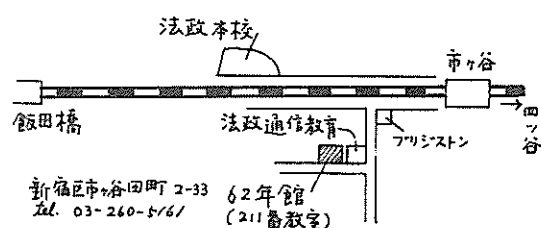
総会議事
経過報告
会計報告ならびに会計監査報告
規約の審議・決定
81年度の活動方針ならびに予算 等

公開プログラム
講 演 ダグラス・ラミス* 日本文化と女性
研究発表 福井 浅子(都立高校) バーナード・カレッジの女性学
早田 キヨ(聖隷学園浜松衛生短期大学) 勤労婦人の役割—看護婦は一生
続けられるか
今井 泰子(静岡県立女子短期大学) 短大は花嫁学校か—女性学入門実践
レポート
北沢 杏子(教員評論家、アーニ出版代表) 男子の性心理、女子の性心理—
中高校生向け性教育教材を作って

司 会 白井 堯子(千葉県立衛生短期大学)
河野貴代美(フェミニストセラピィ“なかま”)

会 費 会員以外の方は500円

この会についてのお問合せは下記へお願いいたします。



会場は市ヶ谷駅(国電、地下鉄有楽町線および都営新宿線)下車で、徒歩5分くらい。地図は国電を念頭に描きましたが、地下鉄ではもっと近いはず、出口の位置を確かめた上でおいで下さい。なお、付近には適当な昼食の場所がありませんので、弁当御持参をお勧めいたします。

* ダグラス・ラミスさん

1936年サンフランシスコ生まれ。カリフォルニア大学バークレー分校卒(Ph. D)。1960年来日。現在、津田塾大学国際関係学科教授。西洋政治思想史専攻。著書—『イデオロギーとしての英会話』晶文社、1976年。『内なる外国—『菊と刀』再考』時事通信社、1981年。

ラミスさんはかつてベトナム反戦運動の高まりの中で、在日アメリカ人が中心になってつくった「外人べ平連」の中心的活動家であり、来日した時以来「近代化論」のテーマと取り組んで来た。日本女性と結婚し、一人娘が生まれてからは日本に腰を落ちつける決意を固めたという。ルース・ベネディクトの『菊と刀』が外からみた比較文化論的日本論であるとすれば、ラミスさんのは深くコミットし内的葛藤を経験したものでなくては不可能なそれである。その場合ラミスさんにとって、母国アメリカは比較の尺度となるほど自明なものでもないし、国境という地球上に引かれた線のもつ意味も固定的にとらえられているわけではない。会員でないラミスさんが快くお引受け下さった特別講演「日本文化と女性」に大いに期待しましょう。

私の仕事，研究——会員から

女性学めぐり逢って

福井 浅子

なぜ女は木登りをするとおてんばといわれるのかしら，男女共学の学校を出て同一条件で入社しても，社任給から差がついているしなぜ生めない女はさげすまれるのでしょうか。物心ついた時からずっと追求してきたことが年頃になって，女は差別されているのだと分り初めてから非常な憤りを感じました。どうしてもその差別を取り除いて女が自由に行動し，自分の力を思いきりためせる世の中にしたいと思い初めたのは，かなり後になってからでした。

私は早稲田では社会学を，社会事業大学では社会福祉を学び，ヨーロッパ福祉の研修旅行をするなかで，諸施設，病院，学校を見学して，学ぶところが多かったのです。若い頃人生設計，つまりライフサイクルの源を考え一部実行していたことを婦人問題懇話会に発表し，新聞や雑誌にスクープされて，センセーションを巻き起したわけです。それから各省庁や教育でも取り上げ高等学校でも教材として人生設計を立てようと活躍されているようです。その頃私のプランニングにより留学の準備のためヨーロッパを旅したわけですが，結局，アメリカに決めて，最初に渡米したのが翌バイセンチュアリー之年でした。セントルイスからニューヨークに行き，コロンビア大学で社会学を学び昨年帰国しました。その時コロンビア大学の姉妹校であるバーナード・カレッジで女性学に接したわけです。それは私が長年考えていたことに，ある糸口が見出せるものでして，これだ！と思ったわけです。

今アメリカでは大部分の大学に女性学が設置されて，次第に軌動にのってきています。バーナー

ド・カレッジは1889年に創立されて以来，優れた女子教育を行い1974年には，いち早く女性学を設置し，東部ではサーロレンスやラドクリフ・カレッジと並んで有名な学校です。特に恩師コマロブスキー教授のクラスは，なかなか人気があって男子学生が多い。その理由は，既存の学問や学科にない新鮮なものと，ホモセクシアル化しつつある現代の若者の要求しているカーレントなもの，例えば外部の専門家をどんどん招いて授業に参加させたり，自作「男のジレンマ」をテキストに使って効果が上っていましたしそこでのsex role「性役割」の学科は私にとって非常なメリットがありました。

世界の人口の半分を有する女を，なぜ現在のステータスに封じ込めているのかを探究し女性即ち人間女として，人類の幸せを究明することができるとする学問であると思う。更に女が歴史的に差別されてきた認識の上に立ち，女みずからの手によって差別をなくしてゆく手段としての学問を身につけ社会文化変革をするものであるというテーゼに立って，その差別の障害を取り除くために努力したいと思うのです。現在都立高の教師をしながら社会女性問題の研究をしています。

私の職業

藤田 起美江

私は社会教育コンサルタントとして，全国各地を飛び廻っています。この仕事をはじめて8年になります。最初3年間はある経営コンサルタント会社で働いておりましたが，その後独立して事務所を構えました。

招請をいただいた企業へ出張し，集合教育，現場教育，講演会などを行なっています。対象者は

女子事務員をはじめ、百貨店の販売員、銀行の女子行員、美容師、ウェイトレス、商工会議所主婦講座など、労働に携わるすべての女性です。

講座内容は、業種によって違って来ますが、どんな業種にも当てはまり、私が強く力説しているのは、女性の能力開発ということです。“能力とは、求められるチャンスと、挑戦する努力によって養われる”ということです。それから“女性と職業”ということで、仕事を持つことへの厳しさ、確立された自己の育成、女性の地位向上、職場の男女平等など、わかりやすく説明しています。また働く目的を何か具体的に持って仕事に立ち向ってほしいということも述べております。

何故この職業を選んだのかと申しますと、第一に、教えることが好きだからです。その上、人前でのおしゃべりは小学校の頃からの持前で、クラス委員をしたり、生徒会長に選出されたりしていましたので、話す能力は持っていたのでしょう。第二は、約10年間、一般事務員として働いた頃の経験を生かしたいと思ったからです。社員4万人のマンモス企業の歯車の一員として、単純作業、お茶汲み、書類整理に追われていました。けれども、“仕事をした!!”という満足感は1日たりともありませんでした。知的労働ではないという事と、男女の賃金格差、仕事の機会の不公平、学歴・学閥主義などに、義憤を感じていたからです。その上、女性の管理・監督者というものも認められていませんでした。

この仕事を何かに生かしていきたいと思っていたところ、女性学会の発足を知り、ぜひ参画したいという気持ちでいっぱいになりました。働く婦人の地位向上、育成につとめたいし、男性の方々の御理解と共に、政治面、社会面からのアプローチも必要と思います。これからの女性は、独立した個人としての、また社会人としての、生涯の充実した責任ある生き方を主体性をもって選択するこ

とが必要です。今や、“女性のあり方”をじっくり考察し、明日へのステップに備える時期がやってきています。そのためにも何かお役に立ちたいと思います。

◇

会員の著作

最近発行された会員の方々の出版物を御紹介します。なお、ほかに会員の方で書物を出版された方、される方、事務局に御一報くだされば紹介させていただきます。献本歓迎!

- 水田宗子著『幕間』(詩集)八坂書房,
1980年刊, 2,000円

◇

入会について

今号はスペースの関係で詳細は省略します。ニュース3号以降毎号掲載しており、規約を承認して入会を希望される方にはどなたにでも門戸を開いております。手続についてはニュース3号以降の「入会について」を御参照下さい。

編集後記

郵便料金の値上げは痛い。ニュース6号にはだからいろいろなものを同封いたしました。とにかく一応はお目通し下さい。そして総会の御出欠と、アジア地域女性学従事者リストの基本カードは、お忘れなく御返送下さい。くれぐれも死蔵のムダをおやめ下さい。

(漆田)

発行 日本女性学会

〒103 東京都中央区八重洲1-4-21

共同ビル13F 西洋美術研究会内

電話 03-274-1791

圧力がかけられたものです。

けれど時代の趨勢と若い世代の性教育に対するニーズは、この圧力を後退させ、1974年、私は「こんにちは 結婚」によって、教育映画祭最優秀賞、文部大臣賞を受賞。仕事はようやく軌道に乗ってきました。

以来今日まで、20数本の性教育教材の製作、性教育図書の出版、翻訳出版などを手がけると同時に、全国の小、中、高校、大学生対象の性教育講座の講師として、また教師、PTA、青年学級、老人学級などの講演会の講師として出向いたり、各紙誌に評論を發表するなど、主に性教育実践者として行動しております。

1976年からは、性教育から発展した形で青少年を蝕むシンナー、タバコ、酒の害を教える教材を製作。翌77年、「さようなら タバコ」が、教育映画祭優秀賞を受賞、中学、高等学校の生活指導教材として教育効果をあげていると報告されています。

海外取材は、1970年から2年毎に行ない、性教育はもちろん、女性運動、避妊中絶対策、兵役問題、人種差別等の諸問題について取材と研究を重ねてきました。そして、青少年の暴力、自殺、売春に関する教育教材の製作に着手したところです。

79年の8月には、韓国裡りのキリスト教放送局で開かれた夏期講座に参加しました。欧州各国の取材を重ねる時、隣国のことをさえ知らない自分を深く反省せざるを得なかったからです。韓国でも青少年の性教育の必要性が叫ばれているそうですから、私も何らかの形で奉仕できるのではないかと思いました。80年には青年の船の講師として500余名の若者たちと中国へ行きました。テーマは「青春をどう生きるか」でした。

地方都市での私の実践

太田裕子

私は、現在、広島県の竹原市教育委員会社会教育課で文化財を担当している。竹原市には、全国でも有数の町並（江戸中期、塩田経営によって富を得た町人により築かれた重厚な町並と共に頼春水、春風、杏坪等の一門を輩出した高度な文化を内蔵）や数多くの文化財が備わっている。

昭和51、52年度と2カ年間文化庁より文化財愛護モデル地区として指定され、文化財学習講座の開設や、文化財愛護少年団の発足（当初は30名で発足したが現在では100人を越す団員となり発展を続けている）等、普及活動につとめ、52年、開発に先がけて中世山城跡である「小梨城跡」の発掘調査を実施、53年度は「町並調査」を実施し、報告書を出版した。54年度は「歴史民俗資料館」の建設、また、町並の保存へと歩を進めて行こうと考えている。こうした一連の文化財行政に追われているが、「女」であるハンディ（まだまだ田舎の小都市では「女のくせに」という考え方が強く、何かをやろうとすると非常に風当たりが強い）、また、高校卒というハンディもあり、今後近い将来、歴史部門だけでも最高教育を受ける機会を是非持ちたい、と思う。現在の職場、市役所でも「女」の位置づけが低く、何歳になっても管理職にはなれず、低いサービス事務に位置づけられて、自分達もそれであきらめてしまっている。私自身も「囁託」であり、行政的な位置づけがなかなか困難であるが、何とかして後継の女性達に道を開きたいと考えている。今では文化財においても、女性としても孤軍奮闘、非常に厳しい毎日を送っている。全国の人達と手をつなぎ、女性の地

位の向上に微力を尽くしたいと思い、入会しました。

現在、個人的にも、お習字（仮名）の勉強をし、本年は県美展へ挑戦してみたいと思っています。また、竹原市庭球連盟女子部会を作り、事務局長及び副部長として100人の会員のお世話をしています。ほかに、羽仁もと子先生の提唱された『婦人之友』の友の会に入り、真の生活を求めたり、近所の奥様と10人ほどの小さなグループを作り、戦争中の毒ガス島、「大久野島」での体験談の聞きとりをし、文集づくりをして、平和教育の一助ともしたいと考えます。

女性社会言語学をめざして

大 島 弘 子

現在大学院の修士課程に籍を置き、日本語学を専攻しています。社会言語学に興味があり、来年の卒論では、「待遇表現」を取り上げたいと思っています。中でも「女性語と女性の地位について」追求してみるつもりです。私の使う「待遇表現」と言う言葉は、南不二男が岩波の講座日本語4「敬語」の中できちんと定義している敬語の範囲の最も広いものにあたります。つまり、verbalなものだけでなくnon-verbalな敬語表現も含み、+（プラス）待遇だけでなく-（マイナス）待遇も含む範囲を考えているわけです。特に女性を中心とした待遇表現を頭においていることは言うまでもありません。言語学の研究をつづけることは、人間と言語のかかわり合いを追求することであり、当然社会学の方面へ手を伸ばさなくてはなりません。将来は女性社会言語学という様な学問をやってみたいものです。

大学の時、Robin Lakoffの“Language and Women's Place”を読み、日本人が一般

に考えている程、アメリカでも男女同権が実現されていると言うわけではないことを、言語面から知りました。例をあげてみますと、

① She is a professional. ② He is a professional. の①文の意味が、彼女は売春婦であると解され、②文の彼は、大学教授、医者、弁護士という様な知的職業従事者に解されるというのは、どういうわけでしょう。社会の女性への潜在的考え方を考えさせられてしまいます。

日本でも「主人」（husband）という呼び方の是非、よしあしをめぐっての論争がありますが、そういう問題が登場してくることが、そのまま女性の置かれている状態を感じさせます。言語は社会の反映でありますから、言語を研究することによって、女性にまたいつく様々な問題に近づきたいと思うわけです。

最後に、最近「“お”の付く語の傾向」を調べました。新聞や雑誌から350程の言葉をひろって見た結果、柴田武が、外来語には付きにくいと判断している「お」も女性語の中だけでは、おビール、おりボン、おソース、おトイレなど、広がっていく傾向にあることがわかりました。また、一般に女性の使う品物に「お」が良くつくようで、台所用品などがその例にあがると思います。反対に女性のにがてな分野、化学、機械、鉱物などには、あまりつかないようです。女性語が日本語を破壊するという極端な意見をはく学生仲間もいますが、私は、女性の「お」の付けすぎの傾向を、女性の「美しい言葉指向」だと解釈しています。



第4回研究報告会のお知らせ

報告者	白井堯子（慶応義塾大学）
テーマ	メアリ・ウルストンクラフトの『女性の権利の擁護』をめぐって
日時	3月14日（土） 午後2時～4時30分
場所	東京都立大学B棟401号室 目黒区八雲1-1-1 東横線都立大前下車徒歩5分
会費	500円

『女性の権利の擁護』は18世紀末、フランス革命の影響を受けたイギリスで記され、女性解放思想を最初に体系づけたものです。白井さんはこの本の翻訳も出版されました（未来社）が、当日は啓蒙思想とキリスト教を基盤に書かれた本書の内容、意義、評価の変遷、研究状況などを述べてみたい、とのことでした。



会員の著作

最近発行された会員の方々の出版物を御紹介します。なお、ほかにも会員の方で書物を出版された方、される方、事務局に御一報くだされば紹介させていただきます。献本歓迎！

- 渥美育子・小林富久子他共著『アメリカ女流作家の群像』駸々堂、1980年刊、2800円。
- 駒尺喜美編『妻たちの復讐——離婚から結婚を考える』すずさわ書店、1980年11月刊、1200円。
- 駒尺喜美著『高村光太郎』講談社現代新書、1980年12月刊、390円。



おわびと訂正

ニュース3号に次のような誤りがありました。おわびして訂正いたします。

- p.1の藤枝さんの文章の17行目 『デンマーク会議と性差別撤廃条約』→『女たちはいま変わる』

- p.3の桑原さんの文章の1行目 大学院博士課程→大学院在学中

事務局から

- ◎ 会員数は56年1月末日現在で102名です。お送りしてある会員登録カードをまだ返送していただけていない方は、会員名簿作成に支障を来しますので、すぐ御返送下さい。3月末に会員名簿を印刷する予定です。
- ◎ 去る2月7日の幹事会では次の点について話し合われました。
 - ① 昭和56年度日本女性学会総会を、来る6月7日（日）法政大学（東京）で開催する予定とし、その際に企画されるシンポジウムのテーマについて話し合われた。一案として、性差の諸側面を多面的にとりあげ、なるべく多くの会員の意見を事前に検討したらどうかという意見がだされた。
 - ② 藤枝さんから、日本における女性学従事者リストを作成する件で日本女性学会に協力の要請があり、学会としての協力の仕方について

て話し合われた。

③事務局の役割分担のうち、会の発足当初から会計事務を担当している松原純子が来年度から他の会員に会計事務の引継をしたいむね申出、会員各位の協力を切望した。

(松原記)

入会について

日本女性学会では、会員の入会をひろくよびかけています。各分野で孤独な頑張りを続けながら、それを女性学として理論化したり具体的に考えていくことに関心をお待ちの方々や、これまで小さい仲間づくりを進めてきた方々の御参加をお待ちしています。ニュース3号でお知らせした通り、学会規約を承認し、所定の会費を払う意志を持つ人なら、どなたでも入会していただくことができます。

申込み

下記のことを事務局宛に送付する(60円切手と返信用封筒同封のこと)。

○住所・氏名・略歴 ○自分の行なっている研究または仕事のテーマ(女性学と関連させて)

事務局で受理した後、常任幹事会の承認を待って、学会規約と振替用紙をお送りいたしますので、会費はそれから振り込んでください。幹事会は2月に1度程度しか開かれませんが、御連絡に多少手間とることがあります。

年会費

一般会員		4,000円
賛助会員	個人 一口	30,000円
	法人 一口	50,000円

事務局

〒103 東京都中央区八重洲1-4-21
共同ビル13F 西洋美術研究会気付

Tel. 03-274-1791

郵便振替口座番号 東京-8-49189

日本女性学会の口座

編集後記

市川房枝さんが逝かれた。私的に目近に接する機会がなかった私には、悲しいという気持は湧かなかったけれども、それは一つの重い事実として、胸の中にひろがっている。大平さんが亡くなった後、新聞の紙面が妙にやさしさに満ちてきたのを居心地悪く見ていたが、今度もちょっとそんな匂いがする。市川さんに心を寄せてきた人たち、それを故人の偉徳のせいだとばかり解するなかれ。死者にやさしい風土であった。“葬い合戦”という言葉は自民党のためだけにだけあるのではない。(漆田)

